

展開している。

一方、今回取得した三井E&S千葉工場のドックエリアでは、現時点では自社でスクラップ事業を行う計画はない。東京湾に面したドックの立地や設備能力を生かした幅広い用途を視野に入れている。基本的にドックを外部に貸し出す方針で、ゼネコンやメーカーなどにプロジェクト案件ごとに貸し出したり、一定期間の長期貸し出しなど柔軟に対応する方針。「取引関係のあるゼネコンなど複数企業からお問い合わせをいただいている」（宮口社長）段階だ。

具体的な用途として、例えば海洋土木関連工事や、船舶・構造物の解体、船舶修繕などの利用を想定。「国内ではケーソンやジャケットといった構造物を製作する工場はあるが、解体に対応できるドックは限られている。船舶リサイクルについても、国際的な環境規制強化などを背景に、日本国内での適正処理の必要性が高まっている」と宮口社長は語る。ガントリークレーンの揚重・解体にも対応可能で、当面は老朽化した港湾のクレーン解体での活用なども見込む。

また、洋上風力発電や二酸化炭素の回収・貯蔵（CCS）といった新エネルギー分野、さらに防衛関連にも期待をかける。特に洋上風力発電は、太平洋側での作業拠点が不足しており、こうした需要への対応も視野に入れる。同ドックでは2021年に福島沖の浮体式洋上風力の実証機を解体した実績があり、「洋上風力については今後日本で設置需要に加え将来的には解体機能の重要性が高まる。設置段階で解体費用まで含めた見積もりを出す必要があるが、大型ドックを活用することでコストダウンや納期短縮などに貢献できる」（宮口社長）とする。

千葉事業所は旧三井造船が1960年代から新造船事業を展開し、LNG船やVLCC、大型バルカーなどを建造していた工場。2021年3月に最終船を引き渡して新造船事業から撤退し、その後は構造物建造などを手掛けながら、ドックを物流拠点などとして活用することや、他用途への転換の検討を重ねていた。岐本金属は、千葉事業所が新造船から撤退した後、工場設備の整理を通じて関係ができ、同設備を活用する構想を温めていた。



「さまざまな用途の活用期待」と宮口社長

サイトの利便性向上や広告配信などのため端末情報等を利用しています。詳しくは「個人情報保護方針」をご覧ください。

2026年4月6日

三井E&S千葉のドックを取得 岐本金属、船舶修繕や解体業などに貸与へ



ドック3基含むドックエリアを取得

金属スクラップ加工・輸出を手掛ける岐本金属（東京都江東区、宮口幸治社長）はこのほど、三井E&Sから旧千葉事業所のドックエリアを取得した。VLCC級ドックなどを含むドック3基を貸与する事業を展開する考え。クレーンやケーソン、洋上風力発電といった構造物の解体、船舶修繕などでのドック活用を見込む。東京湾に面した大型ドックという立地と設備の優位性を生かし、さまざまな用途への展開を目指す。

3月31日に三井E&Sと譲渡契約を結び、同日資産を取得した。売買額は非公開。対象はドックや岸壁を含む工場敷地計22万㎡。

取得した敷地には、1号ドック（500m×45m）、2号ドック（400m×72m）、（200m×72m）のドック3基がある。1号と2号ドックのクレーンは撤去済みだが、1号ドックには吊り能力500トンの門型クレーンが設置されている。ドックは注水・排水をいどは稼働している。艀装岸壁も含まれる。今後は用途に応じた追加の設備投資に

サイトの利便性向上や広告配信などのため端末情報等を利用しています。詳しくは「個人情報保護方針」をご覧ください。

岐本金属は鉄・非鉄スクラップの回収や加工処理、輸出を手掛ける企業。千葉市美浜区の湾岸部に、5万3000トン級までの船舶が接岸可能なプライベートバースを備えた「美浜 SHIPPING YARD」を保有し、ここで金属スクラップを集積・加工し、自社手配の船舶により輸出まで